

○委員長（元榮太一郎君） ただいまから文教科学委員会を開会いたします。

委員の異動について御報告いたします。

昨日までに、那谷屋正義君、舞立昇治君、清水真人君及び水岡俊一君が委員を辞任され、その補欠として蓮舫君、山下雄平君、北村経夫君及び勝部賢志君が選任されました。

○委員長（元榮太一郎君） 理事の補欠選任についてお諮りいたします。

委員の異動に伴い現在理事が一名欠員となっておりますので、その補欠選任を行いたいと存じます。

理事の選任につきましては、先例により、委員長の指名に御一任願いたいと存じますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（元榮太一郎君） 御異議ないと認めます。

それでは、理事に上野通子君を指名いたします。

○委員長（元榮太一郎君） 政府参考人の出席要求に関する件についてお諮りいたします。

教育、文化、スポーツ、学術及び科学技術に関する調査のため、本日の委員会に、理事会協議の

とおり、文部科学省総合教育政策局長藤原章夫君外二名を政府参考人として出席を求め、その説明を聴取することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（元榮太一郎君） 御異議なしと認め、さよう決定いたします。

○委員長（元榮太一郎君） 教育、文化、スポーツ、学術及び科学技術に関する調査を議題とし、質疑を行います。

質疑のある方は順次御発言願います。

○蓮舫君 おはようございます。立憲民主党の蓮舫です。

まず冒頭、円安が止まりません。百二十九円、百二十八円、百三十円に届く勢いです。資源や食料の大半を輸入に頼る日本にとりまして、円安の影響は甚大です。それに伴う物価高が子育て家庭、貧困世帯、シングルで育児をされる家計を直撃しています。教育面や食事などで格差が更に広がる懸念を持っています。

大臣の円安に対する見解、いかがですか。

○国務大臣（末松信介君） 様々な経済に影響を及ぼしてございます新型コロナウイルスのこの物価高騰等の影響は子育て世代にも及んでおりまして、そうした中にありまして、全ての子供たちが、まあ私の考えであります、家庭の経済状況に左右され

ることなく安心して育ち学べる環境整備を行うことが大変重要であると考えていまして、従前より文部科学省としては、幼児期、高等教育段階まで切れ目のない形で教育費の負担の軽減であるとか、貧困による教育格差の解消のための教員定数の加配措置であるとか、スクールソーシャルワーカーの配置の充実、放課後子供教室など地域の教育資源を活用した子供たちへの学習支援、家庭教育への支援の充実など取り組んでおりまして、令和四年度、こうした予算も必要経費を盛り込んでおります。

いずれにしても、学校の給食のこと、いろいろな話も出てございますので、しっかりと状況を受け止めていきたいと思っております。

○蓮舫君 大臣が今おっしゃった項目、令和四年度予算案は、円安や物価高以前の予算案なんです。全く現実と違います。

私たちは、低所得子育て世帯への五万円の給付、学生への生活支援給付、大学授業料半額免除、小中学校の給食無償化など必要と、二十一兆円の補正予算案の提案をしています。補正予算が要るんじゃないですか。

○国務大臣（末松信介君） 今、政府内で様々な協議が行われていると承知をいたしてございます。与党内にもいろんな御意見があるかと思っております。

○蓮舫君 大臣の認識を聞いています。補正は要りますか。

○国務大臣（末松信介君） 今、検討いたしてございます。

○蓮舫君 大臣の認識として、令和四年度予算案では足りない、この物価高、円安、家計を直撃、子供の格差を広げないために補正予算が必要とお考えですか。

○国務大臣（末松信介君） 慎重に、私個人としては慎重に今検討をいたしているところでございます。

○蓮舫君 残念過ぎます。全く危機感がありません。百三十円に突入したら、大半を輸入に頼る日本、家計への直撃、経済への打撃、格差の更なる拡大、その認識が文科大臣にないというのが非常に残念です。私たちは、引き続き、補正予算案の提案を強く求めていきます。

さて、東京オリパラ大会が終わって半年が経過をいたしました。この春から文科大臣がオリパラ担当を兼務するようになりました。最大の任務は何ですか、端的に答えてください。

○国務大臣（末松信介君） 引き継ぎましたときに、堀内大臣から、東京オリンピック・パラリンピックをこれ開催をいたしまして、共生社会の中でできたということ、同時に、新型コロナウイルスが蔓延するこの中でどうにかやり切ることがで

きたということについての成果、こういうような時代、こういうようなときにあってもできるんだということについて、こういうレガシー、きちっと検証していったら、残していこうという、そういう考え方でございます。

今後の、あつ、まだでした。

○蓮舫君 膨大に費用が膨れた前ザハ・デザイン、この問題と改善点を当時の安倍総理と何度も国会でやり取りをして、ようやく安倍総理が二〇一五年に廃止を決断しました。

それ以降、新たな競技場の在り方、随分注視はしてきたんですが、今レガシーとおっしゃいました。新国立競技場はレガシーですか、負の遺産ですか。

○国務大臣（末松信介君） レガシーと考えておりますが、今、はい、どうぞ。

○蓮舫君 資料一を御覧ください。

二〇一六年九月に大会後の運営管理に関する論点整理がまとめられ、二〇一七年十一月に大会後の運営管理に関する基本的な考え方が関係閣僚会議で了承されました。この基本的な考え方が今も政府の方針でよろしいでしょうか。

○国務大臣（末松信介君） 現在においては、二〇一七年十一月に開催されましたこの新国立競技場整備計画再検討のための閣僚会議で現在の取組が進められているということでございますので、

今のところ修正はございません。

○蓮舫君 この方針では、二〇一九年中央に民間事業化の事業スキームが構築され、公募を経て、二〇二〇年秋には十から三十年間の長期契約の優先交渉者を選定、大会終了後に改修を行い、二〇二〇年後半以降に供用開始とあります。

進捗はどうでしょうか。

○国務大臣（末松信介君） 御質問いただきました件でございますが、この国立競技場の運営管理につきましましては、関係閣僚会議において、民間事業への移行を図る、こうされております。文部科学省が中心となって検討を行いまして、コンセンション事業の導入可能性に関する調査であるとかマーケティングサウンディングを行うこととされました。

この方針に基づいて、JSC、日本スポーツ振興センターですね、この民間事業者の意見等を聴取するなど検討を進めてまいりましたが、令和二年以降、新型コロナの影響を受けて、東京大会の開催が一年延期されたことや、民間事業者が取り巻く経済環境も大きく変化をしていることから、このような影響も含めて事業者の関心の度合いや意見を改めて把握をする必要が生じてございます。

このため、JSCでは、専門家の助言も得ながら、昨年の十一月です、民間事業者への意見募集

を開始しておりまして、事業者の感触等を丁寧に確認しながら、実現性のある事業スキームや入札等のスケジュールを見定めていく予定としてございます。

文科省としては、こうした意見や関係者の声、しっかりと聞きながら、民間事業への移行を着実に進められるよう、引き続き取り組んでいるところでございます。

○蓮舫君 コロナやオリンピックが延期されたことが要因というような答弁ですが、違うと思います。そもあるけれども、文科省の前提が実は大変甘かった。

競技場の詳細な図面というのは、企業にとって投資とリスク評価の検討の基礎なんですね。この基礎でもある図面が大会警備の観点から全面開示が困難と分かったのが実は二〇一九年なんです。この二〇一九年には事業スキームを構築するとしていた、その年にその図面が出せないということが分かった。結果として二〇二〇年後の大会後に計画は先送りをされ、コロナがあつて更に二年後に先送りをされた。それでも、萩生田前大臣は、二〇二〇年後半に供用開始が可能と言っています。可能なんですか。

○国務大臣（末松信介君） 先生今お話あったように、新型コロナウイルス感染症のこの感染拡大に伴いまして、一昨年の三月に延期が決まったわ

けでございまして、前提が当然崩れましたので、これ自体は、このコンセッション云々を行って民間に移行していくという云々のことについては、当然変化を生じてございます。

○蓮舫君 いつから民間の事業が始めるかと聞いているんです。本来だったら今年後半から始まる予定だったんです。で、そこで収入が入ってくる。その予定が随分遅れているんですけれども、いつから民間の事業が開始されるんですか。

○国務大臣（末松信介君） 当初は、閣議決定は二〇二二年の秋以降と書いてあつたと記憶をいたしてございますけれども、今のところ、JSCでは、昨年の十一月に民間事業者に対して詳細な図面を示しました上で説明会や現地視察等を実施しつつ感触や意見を確認しているところでありまして、現時点において明確なスケジュールを示せる段階では実はないんです。

可能な限り早い段階で民間事業への円滑かつ着実な移行が進められるよう、文科省としてはJSCと関係機関と緊密に連携を図ってまいりたいと思つてはございます。

○蓮舫君 実に目標が曖昧、文科省としては目標が見えない。実際に民間が手を上げるかどうか不明なんですよ。新国立競技場への関心の度合いをようやく去年末に聞き始めていますからね。こうした中でも予算は使われているんです。資

料二枚目。

民間事業化に向けたアドバイザー業務委託契約費は、令和四年度は約一・七億、これまでに既に約五億使われているんです。こうした税金の使われ方は国民に納得されるとお考えですか。

○国務大臣（末松信介君） お答え申し上げますが、JSCでは、政府の方針等に基づきまして、平成二十九年から専門的な知見を有するコンサルティング業者にアドバイザー業務を委託をいたしまして、国立競技場の運営管理に係る民間事業化に向けまして、民間のノウハウと創意工夫が最大限活用できるコンセッション事業の導入可能性の調査であるとかマーケティングサウンドディングを行いつつながら検討を進め、コンセッション事業を行う場合の実施方針の素案を作成するなどの準備を進めてまいりました。

しかしながら、こうした検討の過程で、民間事業者等より投資やリスクを検討するため求めがあつた国立競技場の詳細な図面等が大会会場のセキュリティの関係上提示できないことから、令和元年十一月に関係閣僚会議に状況を報告しまして、東京大会後、速やかに必要な図面等を開示して、事業者に必要な検討を行つてもらうという方針が確認をされたところでございます。

その後、新型コロナウイルスで影響を受けまして、東京大会の開催が一年延期されたことや、民間事業者

を取り巻く経済環境も大きく変化をしていることから、これらの影響も含め事業者の関心の度合いや意見を改めて把握しなければならぬ状況となっておりま。

このため、JSCにおいては、昨年十一月、十一月から民間事業者の最新の感触や意見等の把握に努めるとともに、今後予定されている公募や事業者選定の際に必要な資料作成の準備を進めていると聞いてございます。

このように、計画段階で想定し得なかった新型コロナウイルスの拡大の甚大な影響を鑑みましたら、現在の状況は私は致し方ない面もあると思いますが、文部科学省としては、民間事業化に向けて取組を着実に進めていくことが重要であると考えておりまして、引き続きJSCとの緊密に連携を取りながら対応してまいりたいと思います。

○蓮舫君 そもそも新競技場は何を行う施設なんですか。

○国務大臣（末松信介君） 先生のお尋ねは、あの競技場は何に使うとおっしゃられたわけですね。スポーツ大会であるとかですね、あるいは各種のイベントを開催していくということになるのかと思いますね。いずれにしても、国民、都民、市民の皆さん方に使っていただく、そういうレクリエーション施設です。

○蓮舫君 違います。一枚目の資料に書いてあり

ます。

大会後の運営管理に関する基本的な考え方では、東京大会後に、国際サッカー連盟ワールドカップ規定、八万席、並びにワールドラグビー規則に対応する球技専用スタジアムに改修をする。陸上、球技での利用ができなくなるとして、政府は球技場とする方針をまとめているんです。

ところが、昨年、二〇二一年九月、萩生田大臣は、球技専用ではなく現状のまま使う、世界陸上を誘致して、あの場で陸上競技を見ていただきたいと発言。両方行うんですか。

○国務大臣（末松信介君） いや、先生、今、私答弁申し上げたのは、スポーツ大会には当然、今後どういう形にしても、サッカーとかラグビーとか、こういうのが含まれてくるということは理解をいただきたいと思うんですけれども。

御質問の件ですけれども、水落先生の時代でしたけれども、文部科学副大臣の下でまとめられました基本的な考え方においては、御指摘のとおり球技専用スタジアムに改修することとされておりま。一方で、民間事業に移行に向けた検討の中で、複数の民間事業者から、陸上トラックを存置して活用した方がスポーツを始めとする各種イベントの円滑な実施が可能となるのではないかという指摘がございました。このことも踏まえながら、現在JSCが実施している民間事業者への意見募

集の中で施設改修の要望の有無を確認し、その御意見を踏まえて陸上トラックの在り方について検討していく予定でございます。

なお、御指摘の萩生田大臣との、会見との関係で申し上げますと、日本陸上競技連盟が二〇二五年世界陸上を招致する意向を世界陸上競技連盟に表明したことは承知をいたしております。このような陸上競技の大規模な大会においてウォーミングアップのためのサブトラックの設置が少し離れた場所で認められるのであれば、こうした動きを踏まえ、将来も陸上競技ができるトラックを残すことは一つの方策であるというように考えてございます。

そういうことでございますから、今のところ考え方には定まったものはありません。

○蓮舫君 政府は、球技専用スタジアムに改修すると決めたんです。どこで、どこで検討して、誰が陸上にも使うと方針を転換したんでしょうか。

○国務大臣（末松信介君） まだこれをこうしようということが実は決まっていはいない、ございません、これにつきましては。

○蓮舫君 中途半端な施設になるのを非常に懸念しています。

大会後の運営管理に関する論点整理では、陸上競技場とすると収益が上がらない、他球技より使用日数は多くなるが、営業ベースに乗せられるか

は課題だと。他方で、サッカー、ラグビーの試合を開催するには球技フィールドと観客席の距離を短くして臨場感を高めることが求められると整理。これを受けて政府は、八万席への改修を行って球技専用スタジアムにすると決めたんです。

じゃ、この八万議席への改修は行うんですか。

○国務大臣（末松信介君） コンセクション事業もこれから展開できるかどうか、今、JSC一生懸命努力をいたしてございます。

改修の必要性についても、何もそれは定まったものでもございません、このことにつきましては。まだ、全てが、JSCが今後どういう形で民間の方々に参加していただきながらあの競技場を使っていくかということ、もうこのことを今検討を繰り返して、今市場にサウンディングを行っているとすると聞いてございます。

○蓮舫君 ですから冒頭に確認をしたんです。大会後の運営管理に関する基本的な考え方は今の政府の考え方ですか。大臣はそうだとおっしゃった。

ここに、八万席に改修する、球技専用スタジアムにする、今後陸上は行えない。言っていることと違うんじゃないですか。

○国務大臣（末松信介君） 先生にお答え申し上げます。

現在、JSCにおきまして、民間事業者の感

や意見を丁寧に聴取しながら、民間事業への移行に向けた検討を行っている最中でございます。先ほど私が申し上げたことと全く変わりません。

このため、こうした検討の結果、民間事業化に向けました最終的な道筋が見えた段階で、JSCと文部科学省で相談の上、文部科学省として、国立競技場の陸上トラックの取扱いについても含めまして基本的な方向性を改めて示すことと考えてございます。幾つか検討を繰り返してございます。

○蓮舫君 検討より迷走を繰り返していると思います。情報公開もされないで、どこで陸上を行って、どの民間事業者が、サッカーも行いたい、陸上も行いたいというて、その中途半端な姿勢の中で、二〇二五年の世界陸連、それに手を挙げるんだ。基本的方針からどんどん逸脱をしている。

そもそも、スタジアムを改修するには百億円必要です。これ、あなたが払うんですか。

○国務大臣（末松信介君） 先生、今御質問いただいておりますんですけれども、どういうように競技場を今後使うかということが定まっていなくて、百億円使って改修するか云々ということはまだ定まらない。しかも、球技あるいは陸上トラック云々についても今検討を重ねておるということを申し上げました。

○蓮舫君 大会後の運営管理に関する基本的な考え方は読まれているんですか。これが全部なん

です。これが決まっているものを検討して変えようとしているのが末松大臣の答弁なんです。物すごく矛盾している。サブトラックについても、日本陸連の規約を変えて、なくてもできるという話になっている。それで二〇二五年に手を挙げると進んでいるんですよ。大臣の答弁自体が余りにも遅れています。認識をちょっと改めていただきたいと思うんですが、私は、この新国立競技場、レガシーどころか負の遺産を大変懸念しております。

二〇一九年十一月三十日に新競技場が完成をしました。二〇二一年、大会が終わって半年がたちました。この間の競技場の維持コスト、幾らですか。

○国務大臣（末松信介君） 国立競技場につきまして、令和元年十一月、二〇一九年竣工後、令和二年夏に予定されておりました東京大会の、JSCから大会組織委員会に貸与されました。その後、新型コロナウイルスの影響によりまして一年延期された東京大会が終了した後、復旧工事が行われてきましたが、本年三月末に大会組織委員会からJSCに返還されたところでございます。芦立理事長ともいろんな話をいたしました。

このため、JSCによる新しい国立競技場の年間を通した定常運営は今月から初めて開始されるため、年間を通じた定常運用の実績はございません。

なお、参考として、大会組織委員会の貸与期間となる令和二年度の人件費、保守、水道光熱費などのランニングコストの実績は約十億五千万円となります。

また、東京の二〇二〇の大会のテストイベント等による競技場の利用収入は、一億五千万です。

○蓮舫君 資料三を御覧ください。

二〇二〇年のランニングコストは約十一億、収入は約一・五億、収支で九億の赤字が出ています。二〇二一年の収入はいかがでしょうか。

○国務大臣（末松信介君） 今決算の途中でございますから、定かに申し上げられませんが、それは六月頃にはなってしまうと思いますね。二〇二一年ですね、六月末でしょうね、先生、そう思っています。六月末、今年の。二〇二一年でしょう、決算については。

○蓮舫君 資料三の右側、収入実績の下に説明されているんですね。二〇二〇年大会のテストイベント等のみに貸し出されており、それ以降の通常のイベント等には貸し出されておられません。つまり、収入はないんですよ。

そうすると、二年間、経費は二十一億ぐらい掛かって、その間の収入は一・五、つまりもう既に二十億の赤字じゃないですか。

○国務大臣（末松信介君） いや、先生、令和三年度は二〇二一年でございますから、その収支に

ついては今年の六月と申し上げているんですけど。○蓮舫君 読んでもらえます。組織委員会以外のイベントには貸し出してないんです。つまり、収入がないじゃないですか。

○国務大臣（末松信介君） まあ収入は、当然、先生、これはないですね、それは。評価、評価しづらいというか、できないと思いますね。

○蓮舫君 ですから、二年間で二十億の赤字になっている。これ、誰が払うんですか。

○国務大臣（末松信介君） 今のところはJSCの会計の中で収めていただくしかありません。

○蓮舫君 JSCの収入は何ですか。

○国務大臣（末松信介君） 収支は赤字になっておりますけれども、竣工直後の令和二年以降は、スポーツイベントの開催中止とか東京大会の一年の延期など、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が極めて甚大な影響を及ぼしておりまして、先月末まで常用運用ができないことを加味すると、国立競技場の運用状況について現時点で評価することは適切でないと考えてございます。

○蓮舫君 JSCの収入は何ですかと伺っているんです。何で違うことを答えるんですか。

○国務大臣（末松信介君） 収入はございません。当然、これ、先生……（発言する者あり）

○蓮舫君 待ってください、ちょっと後ろの秘書官。

JSCの収入はございませんか。JSCは一年間収入なしで運営しているんですか。

○国務大臣（末松信介君） 競技場からの収入は、これはございません。

○蓮舫君 JSCの運営費交付金は何ですか。

○国務大臣（末松信介君） JSCの運営費交付金は当然ございます。

○蓮舫君 どこから、何が財源ですか。

○国務大臣（末松信介君） 当然、国費になると思います。

○蓮舫君 これを聞くだけで何でこんなに時間使うんですか。何も把握していないじゃないですか。

つまり、税金由来で、新国立競技場の計画が遅れば遅れるほど、もう二十億の赤字の見通しがある。収入がないと大臣も認めた。国民が払うんですよ。これ、納得得られると思いますか。

○国務大臣（末松信介君） コンセプション、当然、遅れてしまったことでございます、新型コロナウイルス感染症によりまして。民間に移行して、その収入を得るべき手だてがないという状況でありましたし、今年の三月末まで、これ、競技場が返ってきたのは、JSCに返ってきたのは先月末ですからね、先生。そういうことですから。

○蓮舫君 開き直らないでいただけますか。維持をするだけで、税金で赤字を補填し続けなければいけないんです。

ランニングコストは、さっき言いました、大体十億。ライフサイクルコストは幾らでしょう、五十年間で。

○国務大臣（末松信介君） 今の御指摘でございますけれども、平成二十八年当時、国立競技場を整備する民間事業者がJSCのこの専門家会合で出席し、提出をしました資料におきましては、新国立競技場整備事業の設計段階における試算が示されてございます。

これによりましたら、五十年間に要する経費は、大規模修繕等の約六百五十億円と年間約十一億円の維持管理費を合計して、五十年間、約千二百億円に達するとされております。

○蓮舫君 資料四を御覧ください。

五十年間のライフサイクルコスト六百五十億、これ、ザハ・ディザイン時よりも膨らんでいるんです。これを単純に年計算して先ほどのランニングコストと合わせると、年間に国立競技場が必要なコストは、収入は、二十四億が最低ラインなんです。二〇二〇年の収入は一・五億、既に二十二・五億足りないという計算になるんです。

民間が事業を始めるまで赤字は出続けます。これは誰が負担していくんでしょうか。

○国務大臣（末松信介君） 基本的には国費になるかと思えます。

○蓮舫君 コンセクション、民間事業化が始まっ

たら赤字は出ないという認識でしょうか。

○国務大臣（末松信介君） コンセクションは、私の経験から考えれば、当然、受ける民間企業と国、この辺り全部、関係機関が十分協議をして費用負担の割合を決めていくものでありますから、ここで定かに答えることは難しいでございます。○蓮舫君 その協議が全く情報公開されていないんです。だから心配なんです。本当に大丈夫か。資料五を御覧ください。

最低限二十四億もの経費を上回る収入は本当に見込めるんだろうか。国内主要スタジアムを見ます。野球収入が過半を占める札幌ドーム以外、二十億もの収入があるスタジアムはありません。東京近郊、新国立競技場と同程度の観客席数なスタジアムでいうと、埼玉スタジアムは支出が八・八億、日産スタジアムは観客席では支出は七・五億、味の素スタジアム、味スタ、十一・三億。つまり、新国立競技場がスポーツ競技で経費を上回る収益を稼ぐ場合、こうしたほかのサッカースタジアムよりも貸出単価割高になりませんか。頻繁に使いやすいスタジアムにもうなっていないんじゃないですか。

○国務大臣（末松信介君） 先生、現状でJSCがどういうようにこの競技場を今後使っていくか、またコンセクションも行える状態でどこに入札をさせていただくか、いろんなことがあろうかと思

います。で、運営経費を賄うこと、大変困難でございます。先生おっしゃるとおり。

スタジアムの持続的な運営を行うために、民間のノウハウを競技場運営に反映させまして、スポーツ以外のイベントで活用を広げることや、やはりコスト削減はやらなきゃなりませんし、スタジアム全体で収益性を高めるということ、このことを考えていかざるを得ないと思います。

なお、JSCがこうした民間を活用した様々な取組を先導的に実施をしまして、知見の蓄積とか課題の洗い出しを行うことは、今後、民間事業化の検討にとって大きく資することが期待されてございます。

とにかく、いろいろな検討は今JSCで行ってございます。

○蓮舫君 資料六を御覧ください。

収益性の向上を図る取組、スタジアムツアー、グッズ販売、部屋やスペース貸出し、どれぐらいの収益性につながるんですか。この二十四億の経費にどれぐらい補填できるんですか。

○国務大臣（末松信介君） そこは、少なからずの期待は寄せていきたいとは思っております。

国立競技場が国民から親しまれるスポーツ施設となるように、JSCでは、大規模なスポーツイベントでの利用に加えて、競技場内のスペースを様々な形で有効する、活用することを、有効

活用することを通して、日常的なにぎわいを創出して収益性の向上を図ることとしてございます。

具体的には、民間事業者を活用しながら、本年四月から、通常入ることができないエリアを開放するなど、東京大会のレガシーが体験できるスタジアムツアー、観光や近隣住民の散策に利用できる競技場五階に設置した遊歩道、空の杜の一般開放であるとか、競技場内の会議室やラウンジ等を活用したセミナーや企業の展示会、室内練習場を活用したスポーツ教室の開催など、いろんなことを考えていきたいと思っています。

○蓮舫君 今、スタジアムツアーとおっしゃいました。週末だけ、三十分刻みで数を限って、一人千円でやっているんですが、フル活動して週末を全部動かしても数百万にしかありませんよ。余りにも期待値が低いと思います。しかも、新国立競技場は屋根を外しましたから、音楽、ライブはできません。しかも天然芝です。物が設置できません。

本当に私は収入が心配なんですけれども、これ四月一日から定常営業を開始しましたが、今年度の収支の見通しはいかがですか。

○国務大臣（末松信介君） 確かに、今先生おっしゃったように、音楽コンサートについても、矢沢永吉さんのツアーをこの夏やりますけれども、

空、上空いていますんでね、音の問題等があるから、試験的に今JSCいろんなことを検討しているということを私は申し上げました。

国立競技場につきまして、令和元年の竣工以来、先月末まで東京大会組織委員会に貸与されております。JSCによる年間を通じた定常運用、運営に関する実績データがない状況でございます。加えて、令和二年以降の新型コロナウイルス感染症拡大の影響が色濃く残る中、今後の感染動向いかんによっては、大会やイベント等の開催そのものが、そのものや観客制限等が行われる中での入場料収入をどのように見込むかなどは、様々な要因があるため、現段階において年間収入の見込みを立てることは困難な状況と聞いてございます。

○蓮舫君 何で見込めないんですか。
二〇一六年には新国立競技場整備完成時の収支見込みを公表されましたよ。これも相当甘いもので、国会で審議しましたが、なぜ収支見通しは出さないんですか。

○国務大臣（末松信介君） 先生、恐縮でありますけれども、繰り返しになりますが、国立競技場の建設計画時に予測することができなかった新型コロナウイルスの影響が極めて甚大でございまして、例えば収支見込みを検討するために不可欠な収入の見通しも、今後の感染動向のいかんによっては、大会やイベント等の開催そのものの影響や

観客制限を行われる中での入場料収入をどのように見込むかなど様々な要因が絡んで、収入の柱であります入場料収入の見通しを立てることが非常に難しいと聞いてございます。

加えて、新しい国立競技場は旧国立競技場と大きく異なる仕様や機能を持つスタジアムでございまして、過去の実績を活用して試算することが難しいため、まず四月一日より開始した一年を通して定常運営を通じて十分な実績データを蓄積していく必要があります。

現段階において年間収入の見込みを立てることは困難な状況であると聞いてございます。

○蓮舫君 コロナ禍で収支の見通しが難しいのは民間も同じです。イベント配給や文化事業、飲食店、各種企業も、コロナによる負の影響が見通せない中でも収支をしっかりと見通しを立てて、そして、赤になるか黒になるか、日々の努力を積み重ねて結果を出そうという努力をしているのに、国だけは、新国立競技場だけは、観客席が幾ら、どれぐらい埋まるか分からないから見通しが立てない、赤字になるかもしれないし黒字になるかもしれない、赤字になったら税金で補填。こういう考え方でいいんですか。

○国務大臣（末松信介君） 施設ができた以上、できるだけ赤字を抑えていくのは当然のことでございますので、あらゆる努力はJSCなりやって

ございます。

なお、JSCがこうした民間を活用した様々な取組を先導的に実施をしまして、知見の蓄積や課題の洗い出しを今行っております。さつき矢沢永吉さんのコンサートの話も申し上げましたけれども、民間事業化の検討に大きく資するものがございますので、これからいろんなことを検討を重ねていきたいと思っています。

○蓮舫君 検討を重ねる、努力をする、でもその根拠となる数字は出さない、という検討をしているか情報公開もしない、極めて楽観的な見通しで、頑張るといふ精神論。とても納得できません。

資料七。

東京都が千四百億円を投じて整備した六つのオリパラ大会の施設のうち、バレーボールなどの会場となった有明アリーナを除く五つの施設が年間十億円以上の赤字見通しとなりました。七十八億円を投じたカヌー会場、年間一・六億円の赤字、その上に、波を和らげる装置にカギが大量に付着し、除去費用だけで昨年一・四億もの追加費用が出ました。これは毎年発生していきます。水泳競技が行われたアクアティクスセンター、五百六十七億を掛けて整備されましたが、年間百万人もの利用があったとしても六・四億の赤字見通しです。千六百億円、それにザハ・デザイン時代のもの入れて二千億もの税金を投入して造った新国立競

技場、本当に大丈夫ですか。

○国務大臣（末松信介君） 繰り返しになりますけれども、今JSCで様々な角度から、今どういうように今後競技場を使っているのか、検討いたしております。この二〇二三年の三月、先月に施設が返ってきたばかりでありますから、どうしていくかということについては今後しっかりとJSCに検討いただくということが大事かと、私はそのように思っております。

○蓮舫君 無責任過ぎませんか。コロナに丸投げ、JSCに丸投げ、情報は公開しない。

JSCの検討はこれまでも私は見てきました。ザハ・デザイン時代の収支見通し、本当に苦しい努力で、収入にいろんなものをカウントしていた。プレチナムシートとかゴールデンシートとか、個室を貸し出すとか、企業に運動会で貸し出すとか、もうすごかったですよ。本当にこれが国立規模で二十億埋まるのかというものを積み上げて、ぎりぎり、ぎりぎり何とか収支均衡合わせていましたけれども、そういう情報も出さないので、JSCが頑張っている。じゃ、様々な角度見せてくださいよ。二千億もの税金を投じて造ったもので、もう既に二十億の赤字が見通しされて、民間事業がいつになるのかも分からなくて、それまでは税金で補填をし続ける。とても理解できないと思います。

せめて、せめて、大臣も分かっているんだったらもう一度ちゃんと勉強していただいて、JSCに情報公開させる努力していただませんか。

○国務大臣（末松信介君） 努力は、芦立理事長と話をしながら、今申し上げたように、スポーツイベントとか、あるいは音楽コンサートであるとか、まあ先生は少し小さな商売じゃないかと思われるかもしれませんが、グッズを売ったりとか、いろんなことは検討いたしていることは申し上げます。

二〇二一年で収入が一億何ぼあったのも、これは試験的に、元々は貸与してましたからね、これ、組織委員会に。そこでイベント、スポーツイベントを試験的に実行するというので、結局、本来は入ってこない収入をJSCがその収入として上げざるを得なかったものがそこございます。だから、これからについてどうするかということと収入見込みを上げるということは、現段階ではできない、しかし努力はいたしてまいりたいと思っております。

○蓮舫君 全く納得できません。情報も公開しない、これから頑張る。

スポーツは感動すると所信で述べていました。オリパラ大会のことを自画自賛しました。だったら、負の遺産とならない努力の、最低限の指導力発揮してください。情報を公開してください。

どんな議論をしているのか教えてください。収支、見通し、今日大臣が答弁したものの数字のバックアップデータを出してください。せめて、それを国民に見せることによって、年間十億もの国税で赤字を補填していく理解を得る努力をするべきだと私は思います。

是非その考え方を理事会に出していただきたいということを経後に委員長にお願いを申し上げ、質問を終わります。

○委員長（元榮太一郎君） 後刻理事会で協議いたします。

○伊藤孝恵君 国民民主党・新緑風会の伊藤孝恵です。

先ほど、蓮舫委員の質問、補正予算についての大臣の答弁、非常に不安を覚えました。

通告はしておりませんが、冒頭、一問質問させていただきたいと思います。

円安が進んでいます。輸入物価が上がっています。これ、恐れていた戦後最大のスタグフレーション、これ現実のものとなっています。スタグフレーションというのは、物価は上がっていくのに景気は低迷していく。それに加えて、この我が国の実質賃金というのは、一九九六、七年をピークにずうっと四半世紀下がっています。こんな国は先進国で日本しかありません。

こういう状態において、政府の一員として末松

大臣は、この円安、物価高が続くとき、国民生活にとつて最も効果的な政策というのはどういうものだとお考えですか。

○国務大臣（末松信介君） 国民生活にとつて一番大事なことは、それは、先生、これは物価の安定です。私はそう思います。元々は内外価格差の問題等々がありましたから、やはり、国民生活を安全、安心させるにはやっぱり物価の安定をしていくということが大事だと思います。

今物価が上がってございます。先生御指摘されたとおりです。

○伊藤孝恵君 余り更問いしたくないんですけども、物価が安定しても賃金が今のままでは暮らせない、こういう、物価も高くなっている、そして景気も低迷している、賃金も下がっている、これが今です。この今において効果的な政策というのは、政治家がなすべき政策というのは何なんでしょうかというのを今伺っています。

○国務大臣（末松信介君） 二〇〇〇年、物価一〇〇と、あつ、済みません、賃金、実質賃金一〇〇とした場合、日本のみが確かに、一〇四か五でございまして、賃金上がってございせん。

しかし、企業の内部留保の問題、よく問われる問題がございまして。やはり循環を良くしていかなくさいけませんし、給料も上げてもらわなければ、だったら使う。しかし、今の輸入物価が上が

っている問題は、これはまた別の問題でございます、要因がございまして。先生今お急ぎみたいですから、私はそう考えています。循環を良くする。

○伊藤孝恵君 バンク・オブ・イングランドは、一九七〇年代のオイルショックを超える状態になるというふうに警鐘を鳴らしています。こういうときに効果的な政策というのは、大臣、家計支援じゃないでしょうか。ガソリン代、これもうどんなん上がっています、今。どこまで上がるんだろう。私、昨日、電気代の請求書見て二度見しました。すごく今電気代も高い。そして、スーパーに行けば、食卓の優等生もやし、これも十円上がっているんですよ。

こういう、四月中に政府は経済対策取りまとめるといふふうにおっしゃっていますけれども、こういう本当に暮らす、生活者の感覚を酌み取った経済政策というのを是非つくっていただきたいというのを冒頭お願いを申し上げます。あつ、大臣、何か手挙げていらつしやいます。

○国務大臣（末松信介君） ここは文科委員会なんで、授業料減免であるとか、先生、奨学金のこの経済的な支援制度、これ急変、家計急変した場合にも対応いたしておりますので、そういう答弁でありましたらそういう答弁を続けます。ここ、ちよつと委員会の類いからして、御遠慮申し上げます。